

# 松本養護学校施設整備事業基本計画策定支援業務委託プロポーザル 審査講評

## 1 審査概要

本事業のプロポーザルでは、各分野を代表する六名の審査委員（以下「委員」という。）による審査委員会（以下「委員会」という。）により、募集要領の策定、一次審査及び二次審査について慎重かつ厳正な審査を行った。

## 2 選定結果

委員会が選定した最適候補者等は以下のとおりである。

最適候補者	SALHAUS・仲建築設計スタジオ共同企業体 (代表構成員 (株)SALHAUS 構成員 (株)仲建築設計スタジオ)
候補者 (次点)	コンテンポラリーズ+第一設計共同企業体 (代表構成員 (株)コンテンポラリーズ 構成員 (株)第一設計)
準候補者 (次々点)	(株)古森弘一建築設計事務所

## 3 審査経過

### (1) 第1回審査委員会

日程： 令和4年5月9日（月）、13日（金）

場所： オンライン会議

内容： 委員長の選出、NSDプロジェクトの理念の確認、実施要領等の協議を実施

### (2) 第2回審査委員会

日程： 令和4年5月29日（日）、30日（月）

場所： オンライン会議

内容： 募集要領における参加資格要件、審査方法等の協議を実施

### (3) 第3回審査委員会（一次審査）

日程： 令和4年8月28日（日）

場所： 全国町村会館（東京都千代田区）

概要： 二次審査対象者の選定等を実施。

まず、提案書等の提出のあった10者について、参加資格を有すること、及び提出書類について実施要領に規定する記載要領に従って作成されていることなど失格基準に抵触していないこと、更には委員へ事前説明その他接触などがなく留意事項

における禁止事項に抵触していないことを確認した上で、審査を行った。

次いで、第一段階として 10 者について一者ずつ各委員の専門的知見からの講評を交えた意見交換を実施した。それらを反映させつつ、各委員が提案書等を再度精査し、三票を基本に投票を行った。【表 1】

第二段階として、第一回投票結果を見ながら各委員がそれぞれの提出案に対する印象を述べ、絞り込みの方法について意見を交換した。その上で、票の少ない者からひとつひとつ確認した上で、次の段階に進むべき提案を吟味した。結果、この段階で三票以上を獲得した四者を二次審査対象者とする事とした。

次に、第三段階として、0 票及び一票の者を改めてひとつひとつ確認した上で、0 票と一票から各一者の計二者を最初の票数は少ないが議論に残すべき提案として拾い上げた。それらに対して意見交換を行い、最大一票での投票を行った。【表 2】

ここで三票を獲得した一者を先の四者に加えた計五者を二次審査対象者とした。

【表 1】一次審査 第 1 回投票結果

投票数	対象者数	審査 No.
6 票	1 者	1※
5 票	1 者	10※
3 票	2 者	2※、7※
1 票	1 者	5
0 票	5 者	3、4、6、8、9
計	10 者	

注 1) ※は二次審査対象者を示す。

注 2) 審査 No.は提出書類受付順

【表 2】一次審査 第 2 回投票結果

投票数	対象者数	審査 No.
3 票	1 者	5※
1 票	1 者	6
計	2 者	

注 3) ※は二次審査対象者を示す。

#### (4) 第4回審査委員会（二次審査）

日程： 令和4年10月16日（日）

場所： 長野養護学校三輪教室（長野県長野市）

概要： 実施体制及び提案書に基づき、一者当たり発表 15 分の公開プレゼンテーションを五者続けて行った。続けて五者が一堂に会して 75 分の公開ヒアリングを行った。

その後、提案書等の内容及びプレゼンテーションやヒアリングなどを踏まえて委員会において次のとおり審議を行った。まずは、各委員が専門的知見に基づいた評価を示しながら、意見交換を展開した。その上で議論の対象として残したい提案の参考とするため、各委員が最大二票の投票を行った。【表3】

その結果を受け、各者が作り出すバリューや課題などを議論し、委員会の全会一致で、最適候補者を「SALHAUS・仲建築設計スタジオ共同企業体」に選定した。

その後、候補者（次点）、準候補者（次々点）の選定に当たり、改めて各者について意見交換を実施し、設計の技術力や実施体制を観点として各委員が一票を投じる投票を行った。【表4】

その結果を受けた議論の上、委員会の総意として、候補者（次点）を「コンテンポラリーズ+第一設計共同企業体」に、準候補者（次々点）を「株式会社古森弘一建築設計事務所」に選定した。

【表3】二次審査 投票結果

提案者名（発表順）		投票数
1	(株)アトリエ・アンド・アイ・金子敬輔建築設計事務所・ (株)MMA A A設計共同体	1
2	SALHAUS・仲建築設計スタジオ共同企業体	6
3	山田建築設計室+スタジオトポス+ナカムラアーキスタジオ 共同企業体	0
4	(株)古森弘一建築設計事務所	3
5	コンテンポラリーズ+第一設計共同企業体	1

【表4】二次審査 投票結果（候補者等）

提案者名（発表順）		投票数
1	(株)アトリエ・アンド・アイ・金子敬輔建築設計事務所・ (株)MMA A A設計共同体	1
3	山田建築設計室+スタジオトポス+ナカムラアーキスタジオ 共同企業体	0
4	株式会社古森弘一建築設計事務所	2
5	コンテンポラリーズ+第一設計共同企業体	3

## 4 講評

### (1) 全体講評

30年後の将来計画を見据えて既存校舎を残しつつ、大規模な建築を伴う特別支援学校施設整備のリーディングケースとなり得る本事業に対し、提出された10者の提案はどれも熟慮に富んだ見ごたえのある提案であった。NSDの理念に共鳴し、多くの時間と労力をかけて、応募の労を取って頂いた方々に感謝の意を表したい。

本事業は、松本圏域南西部（松本市西部、塩尻市西部、山形村、朝日村）の知的障がい特別支援学校である松本養護学校の学びと空間の環境を整備するものである。NSDは、こうした学校固有の条件やコンセプトに配慮しながら、長野県が目指す新たな学びを実現する学習空間を実現するために、基本計画の段階から設計者一体となって取り組もうとする全国的にも例のない事業である。

二次審査に残った五者は、どれも新たな学びの実現や地域における学校の在り方など多様な観点から切り込んでいたことに加えて、特別支援学校のあり方と環境整備の可能性に教育と建築の両面から真摯に向き合おうとした優れたものであった。最終的には、児童生徒に寄り添いながら、一人ひとりが満足感や成就感を味わえる学ぶ空間を目指しながらも、現実的で完成度の高い提案を行ったSALHAUS・仲建築設計スタジオ共同企業体を最適候補者として選定した。

ここからが本当のスタートである。最適候補者に選ばれた主体には、学校や地域など学校づくりに関係するすべての人が、自分たちが携わったから良いものができたと言えようと言える学校づくりとなるよう、丁寧に本事業に取り組まれることを期待している。

### (2) 個別講評（二次審査対象者）

#### SALHAUS・仲建築設計スタジオ共同企業体《最適候補者》

ラーニングストリートを中心軸に各部を横断的につなぐコネクトパスで構成された空間構成を持つ、明快でわかり易い提案である。構造計画や、水害への配慮、フレキシビリティなど、押さえ方も完成度の高いものであった。重層的な説明や受け答えからも、多様な関係者と協働して解決に導き得る、経験値に裏付けられた柔軟性を持っていることを感じ取ることが出来た。二期工事を見据えた今後30年間の対応や景観上の配慮も熟慮の跡が認められるものであった。チームの組成も広い専門領域を有する秀逸な構成であり、好感を持って受け止められた。

このような高い能力が散見される一方で、和小屋の大きな気積による音や熱環境など今後の懸念も提示された。しかしながら、課題に丁寧に向き合うこのチームであれば、関係者と調整を図りつつ、解決に導いていくことが十分可能であろうと判断された。

#### コンテンプラリーズ+第一設計共同企業体《候補者（次点）》

敷地中央を大胆に縦断する「まちのみち」と各教室をつなぐ「学びのみち」で構成されたこの提案は、一次審査の委員会からのコメントに対し、自らの提案骨子をぶれることなく柔軟かつ真摯に対応するもので、事業に対する向き合い方が高く評価された。また、セキュリティラインや構造的な部分も含めた整理は、練度の高いものであった。

このようにコンセプトの中核である「まちのみち」については丁寧に考えられている一方で、こどもたちの生活の中心となる教室周りについては、建築的にも教育的にももう少し踏み込みが期待されることから、惜しくも次点に留まった。「まちのみち」と対を成す「学びのみち」がもう少し子どもたちの行為を喚起させるものであれば、結果は違ったものになったものと思われる。

(株)古森弘一建築設計事務所《準候補者（次々点）》

敷地中央の南北をつなぐ通路に教室などを配置した「松養コ・ラボ」を軸に据え、建具で空間を仕切ることによって地域に段階的に開放できるようにした提案である。教室周りが丁寧に考えられるとともに、地域交流拠点の運用について、福祉と農の関係をきっかけに地域に根付いていくストーリーが提示されていた。チームの中に、そうした運用の核となる地元の人材を組み込むなど、そのプレゼンテーションは、先駆的な学校として全国に発信できる可能性を感じさせる秀逸なものであった。

一方で、そうしたキーパーソンをどのようにつなぎ留め続けられるかといった計画の持続可能性、松本地域の気候風土に対応した屋根形状等の在り方など、いくつかの懸念事項が提示された。提案が魅力的であっただけに、建築的検討がより踏み込んだものであれば、さらに高い評価を得られたと思われる。これらから、惜しくも次点に次ぐ準候補者に留まることになった。

(以下、発表順)

(株)アトリエ・アンド・アイ・金子敬輔建築設計事務所・(株)MMA A A設計共同体

第二期工事を見据えてラーニングストリートを中心に管理諸室や小学部、中学部などのクラスターを直交に配置する、平面構成が明快な提案である。特別支援学校を設計した実績も有していることから提案書の段階では高く評価されていた。しかしながら、質疑における受け答えにおいて、それを発展させ、NSD が求めるパートナー像に合致していることを示すことが出来なかったようである。加えて、二期工事の時に仮設校舎を建てるのが前提となっているところも、評価を延ばすことに繋がらなかった。

山田建築設計室+スタジオトポス+ナカムラアーキスタジオ共同企業体

特徴的な三角形のクラスターを「であいの道」でつなげながら反復させるユニークな提案である。地元県産木材を積極的に活用した温かみのある空間の提案も好感を持って受け止められた。その一方、特徴的な形状の必然性がどこまであるのかを説得力を持って伝えることが出来なかったように思われる。地元の気候風土を熟知したチーム構成であることが評価されていただけに、他の提案者が建築に対する練度の高さやコンセプトに対する対応性を発揮するなかで、埋没してしまった感が否めないのは残念であった。

## 5 プロポーザル概要

### (1) 経過

令和4年5月9日、13日	第1回委員会	
令和4年5月29日、30日	第2回委員会	
令和4年6月27日	公告	
令和4年7月6日、8日	現地説明会	
令和4年7月15日	参加表明書の提出期限	11者提出
令和4年8月8日	一次審査書類の提出期限	10者提出
令和4年8月28日	第3回委員会 (一次審査)	二次審査対象者の選定(五者)
令和4年9月2日	一次審査結果通知	
令和4年9月27日	二次審査書類の提出期限	五者提出
令和4年10月16日	第4回審査委員会 (二次審査)	公開プレゼンテーション 公開ヒアリング 最適候補者等の選定

### (2) 審査委員会等構成

審査委員会(五十音順・敬称略)

区分	氏名	所属等	分野
委員長	赤松 佳珠子	法政大学・教授 (株)シーラカンズアンドアソシエイツ・代表取締役	建築
委員	垣野 義典	東京理科大学・教授	建築・教育
委員	下山 真衣	信州大学・准教授	特別支援教育
委員	高橋 純	東京学芸大学・教授	教育
委員	寺内 美紀子	信州大学・教授	建築
委員	西沢 大良	芝浦工業大学・教授 (株)西沢大良建築設計事務所・代表取締役	建築

アドバイザー(敬称略)

氏名	所属等	分野
小野田 泰明	東北大学・教授	都市・建築学